

～ シンガポール便り ～

Vol.11

シンガポール事務所長 橋本 康男



広島も暑い季節を迎えていることと思いますが、年中このような暑さの土地もあると思えば少しは我慢しやすくなりませんか。当地の学校は6月と12月が休みなのに対して、日本人学校は8月を「夏休み」、年末年始を「冬休み」としています。短パン、Tシャツで「冬休み」はないと思うのですが、季節感というものは抜けにくく、私も当地の人との会話の中でつい「来年の秋」などという表現を使ってしまう。

■ 受け入れる国際交流 ■

当事務所の仕事は経済交流関係が主ですがいわゆる国際交流事業とも無縁ではありません。国際交流の意義というのは、単に仲良くすることは良いことだというだけではなく、交流を通じて異質な考え方・文化等と触れ合い、理解し受け入れることによって、新たな発見が生まれ自分の世界が広がることだと思います。海外に出たときだけ開放的な気分になり交流したつもりになるのではなく、もっと幅広く受け入れようとするのが大切だと思います。いわば「受け入れる国際交流」が必要ではないでしょうか。県においても、様々な形でもっと海外から人々を受け入れる事業を検討していただきたいと思います。

■ 日本語熱 ■

シンガポールポリテクニク校では昨年からは日本語授業を開講し、広島から100万円相当の日本語教育図書を寄贈したことは以前にもご紹介しましたが、この日本語授業の今年の受講希望者数は1,200人で、フランス語の250人、ドイツ語90人に比べて圧倒的な人気となっています。

ただし、せっかく日本語を勉強して日系の企業に入っても日本人以外には昇進の道が開ざれているとの批判は相変わらずであり、このような日本語熱が失望に終わらないように日本側の変化も必要だと思います。

■ 経済交流団の派遣 ■

6月上旬には、シンガポール政府経済開発庁が組織した企業グループが広島と静岡を訪問しました。静岡県はシンガポール駐在員と共同で受け入れ対応をしたものです。

訪問したのは中小企業のグループであり、日本の企業の実状の視察だけでなく、技術提携や合併事業、新たな取引機会の開拓などに意欲を持っています。経済交流が中小企業にとってもフロンティアの開拓であることはどこの国でも同じようです。



<シンガポールの企業グループの訪日団>

～シンガポール便り～

■東マレーシア■

東マレーシアといっただけで場所や地名が浮かぶ人はどのくらいいらっしゃるでしょうか。いわゆるボルネオ島の北側であり、サバとサラワクの2つの州があります。サバ州の州都はコタキナバルですが、日本ではサンダカンの方が有名かもしれません。サラワク州の方はイギリス人ブルックの王国建設や首狩り族の歴史が有名です。どちらもマレーシアの一部ではあるのですが、半島マレーシアに住むマレーシア人でもこの2州に入る場合にはパスポートが必要となっています。人口構成でもサラワク州ではイバン族などの原住民族が約半数を占めるほか、宗教的にもキリスト教徒が多いなど半島マレーシアとはかなり異なります。街の風景は穏やかで市場には豊富な果物が並んでいます。ここにも日本企業が進出しており、今回は岐阜県の中小企業の合併事業である陶器工場を訪問しました。

■半島マレーシア■

半島マレーシアのマラッカの近くまで車で行ってきました。往復 350 km程で道も比較的良く、十分日帰りが可能です。自分で車を運転して国境を越えるのは初めてでしたが、ほとんど車から降りる必要もなくあっけないほどの簡単さです。

今回は広島関係企業の工場訪問が目的でした。この工場は隣接する日本の大手家電メーカー用のプラスチック部品を製造しています。この家電メーカーの工場は年間 200万台のテレビを製造しており、単一の工場としては世界最大規模とのこと。クアラルンプール(KL)には日本人学校もあり生活もさほど不自由はありませんが、このあたりではそうもいかず、これらの工場で働く日本人はほとんどが単身赴任です。中にはKLやシンガポールに家族を置いて週末だけ帰っている人もいます。日本企業の海外展開が驚くほどの規模と広がりで行われている中で、沢山の日本人が様々な厳しい生活環境の中で暮らしています。

行きは幹線の国道を歩いていきましたが帰りは西海岸沿いの村々を結ぶ道を通ってみました。ちょうど金曜日で、ゴムやヤシの林の中に点在する家々から若者から年寄まで男たちが近所のモスクへ三々五々集まっており、イスラムの国を感じさせる光景でした。

《マレーシア生活ひとくちメモ》 ～イスラムの国の赤十字～

日本でも病院や救急車は赤十字マークと決まっていますが、イスラム教の国では異教徒の十字マークは使いません。そのかわりに三日月マークを使いますが、色は同じく赤色となっています。こちらで生活していると、今までいかに宗教に無関心で過ごしてきたかと感じさせられます。



<マレーシアの地方都市>



～ シンガポール便り ～

Vol.12

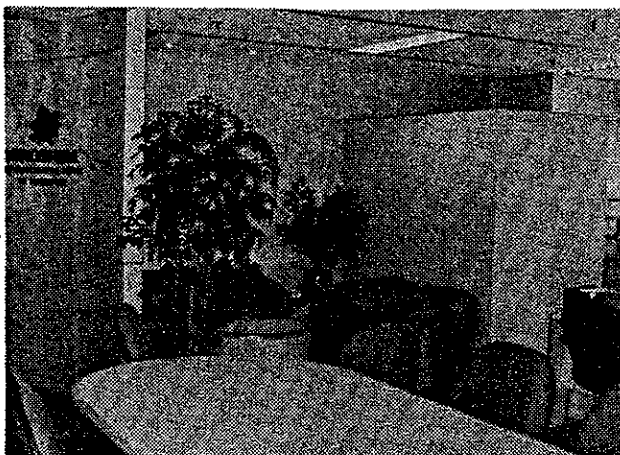
シンガポール事務所長 橋本 康男



シンガポールに来て1年が経ちました。もうそんなに経ったかなという気持ちと、そうと言っても色々あったなという思いの両方です。県が主体となつての初めての事務所設置であり、準備不足、認識不足の問題を抱えてのスタートでしたが、何とか軌道に乗ってきたのではないかと感じています。私個人も、マレー人かと聞かれるほど色が黒くなり、体重も7kg増え、身長も伊藤忠商事出向の際に1cm伸びたのに加えてまた1cm伸びるなど、適当に順応しています。

■数字で振り返る1年■

256人 日本人以外と名刺交換した人数です。これに当地の日本人 294人、日本からの来客 338人を加えると随分多くの人々に会っています。色々な人と出会えるのがこの仕事の楽しみの一つですが、困るのは名前が覚えられないことです。会社名よりも肩書きや個人名が優先する社会で、名前を呼び合



＜シンガポール広島事務所＞

う機会が多いのですが、Mr. Seow Poh Leok とか Mrs. Tay-Chin Choy Yoonなど発音自体やどこを覚えればよいのか悩む上、Dr. Abdullah Hasbi Bin Haji Hassanなどとなるともうお手上げです。なお、仕事の話や家族の話などをしてみると、当たり前のことですが考えることは皆同じですし、同じ国でも個人の考え方の差が大きいのもまた同じで、「〇〇人は」と一つにくくってしまうことの危険さを感じています。

24件 広島からの来客用に訪問アレンジした件数です。内訳は、政府機関25件、経済団体等22件、企業26件、その他（家庭訪問）1件です。同じ1件でも簡単なもの手間のかかったものと様々であり、それぞれに思い出があります。

24件 業務で訪問した件数です。企業訪問や来客の際の同行訪問などが主ですが、中には広島から送ってきたビデオを検閲局へ持って行くという日本では想像できないような用務も入っています。

21件 出席したレセプションの数です。職員1名でも所長は所長ということで色々なレセプションに招かれます。夫婦で招かれることも多く、広島ではパーティーなど縁のなかった我が家では、最初はおっかなびっくり出席したものです。このようなレセプションで知り合う人も多く、大事な交流機会となっています。また、地元の経済団体などの招待の中には政府高官が主賓として出席するものが多く、前首相1回、首相1回、副首相2回など貴重な経験をしています。

24,000km 運転した走行距離です。南北20km東西40kmの島の中でよく走ったものと思

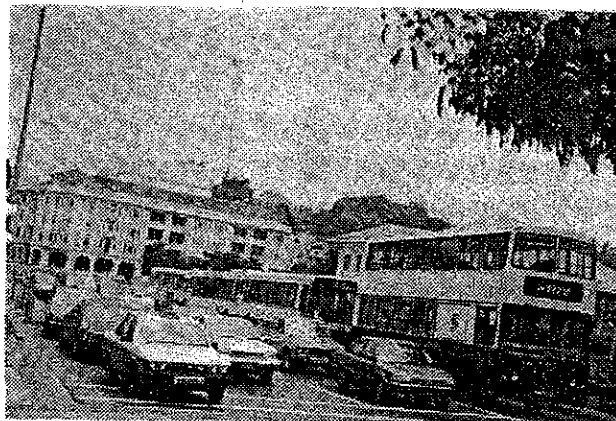
～シンガポール便り～

います。幸いにして無事故ですが、無違反の方についてはノーコメントということにしており、政府の一年間の交通違反罰金収入額35億円という数字をあげておきます。

■数字で見るシンガポールの生活■

87% HDBと呼ばれる公団住宅に住む国民の割合です。これに民間アパートに住む人を入れるとほとんどの人が高層住宅に住んでいることになり、一種の未来社会を彷彿とさせる光景です。なお、政府の積極的な持ち家政策の下、CPFという一種の強制貯蓄制度の効果もあって国民の持ち家率は79%と世界有数の高さを誇っています。

\$2.20(176円) タクシーの基本料金です。来た当時は、タクシーと米(5kg約600円)と肉の安さに喜んだものですが、だんだんと割安感がなくなりました。当地ではタクシーが高く感じるようになったら慣れてきた証拠というのだそうです。ちなみに、地下鉄の初乗りは\$0.60(48円)、バスの最低料金は\$0.50(40円)です。



\$2.50(200円) 日本の缶ビールの平均的な安売価格です。普段は\$2.80位ですが、自由価格のためこの程度で手に入ります。地元のアンカーやタイガービールも似たような価格なので、もっぱら日本で飲み慣れたビールを飲んでいます。このようにビールは相対的に割安感があるのに対して、日本酒は1.8Lが3,000円程度で焼酎も日本酒並みの値段でありちょっと手が出ません。

\$800万円 マツダクロノスのシンガポールでの値段です。車の関税が200%の上に、車の購入権とでもいうものの入札価格が最近では200万円程度するためにこのような価格になってしまいます。このような高価格政策に加えて市街地へのラッシュ時の乗り入れには\$3.00(240円)徴収という制度により、渋滞からは無縁な街づくりが実現しています。

2,500人 シンガポール日本人小・中学校の生徒数です。世界でも最大規模とのことで、小学校は各学年8クラスあります。子供の教育のために単身赴任という例が多い東南アジアでは極めて恵まれた国ですが、ほとんどの時間を日本語の世界で過ごすために当地の子供達との交流の機会がないという問題もあります。なお、子供達はスクールバスで通学しており、マレーシアのジョホールバルからの分を含めると小学校だけで50台を超えるスクールバスが運行されています。

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～TVの字幕～

行政、教育は英語ですが、公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語の4ヵ国語となっており、TVの番組も各国語に配慮したものとなっています。もちろん3ヵ国語の字幕を出すのは無理なので、中国語の番組に英語といったように1ヵ国語の字幕を付けたり、ニュースは4ヵ国語それぞれ時間を分けて放送するなどの工夫をしています。香港映画は、北京語を奨励する政府の方針にそって北京語への吹き替え版が放送されていますが、元は広東語なので北京語と英語の字幕が付いています。

～ シンガポール便り～

Vol.13

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



先日、シンガポールの南にあるインドネシア領のバタム島、ビンタン島へ行ってきました。これらの島は成長の三角地帯と呼ばれる地域の一角にあり、シンガポールとインドネシア両国の協力によって開発が進められています。今回は、シンガポール大学主催のセミナーで知り合ったインドネシアの銀行のシンガポール駐在員からの招待で、シンガポールの実業家など19人と一緒に2日間にわたって両島を案内してもらいました。

■成長の三角地帯■

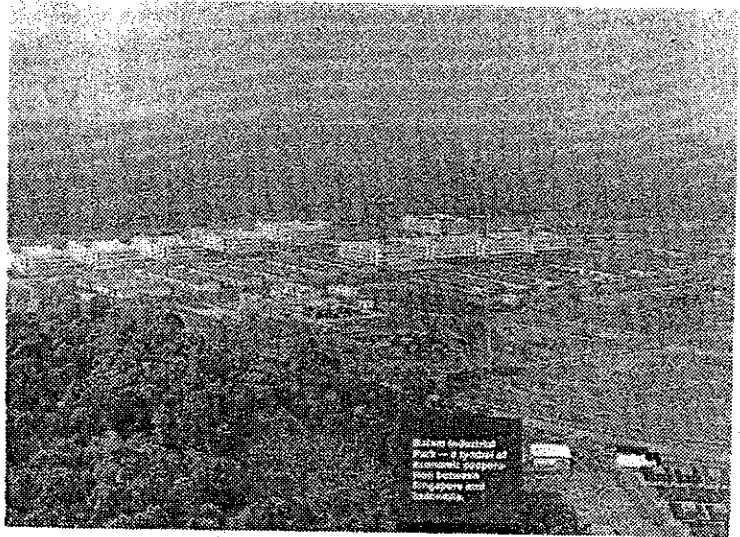
1990年に提唱されたもので、半島マレーシア南部のジョホール、シンガポール、それにシンガポールの南にあるバタム島、ビンタン島などのインドネシアのリアウ諸島の3地域を結んだ地域において、それぞれの資源を生かして共に発展していこうというものです。

大雑把に言えば、シンガポールは情報、金融、輸送、研究開発の拠点として、人手不足が問題となってきているジョホールは比較的技術集約的な生産拠点として、1億8千万人という豊富な人口を持つインドネシアはバタム島、ビンタン島を比較的労働集約的な生産拠点として、共同で開発していこうというものです。

■バタム島■

バタム島は、シンガポールから船でわずか30分の所にある、シンガポールの3分の2ほどの大きさの島です。

シンガポール政府系の企業とインドネシアのサリムグループとが開発会社を作り、工業団地の開発、電力、水の供給施設や通信、輸送施設の整備をシンガポールの水準で行うとともに、企業誘致についてもシンガポール主導で行っています。今年の4月に第一期70％が完成し、日



<バタム島の工業団地>

本企業16社を含む45社が進出を決め、29社が既に操業を開始しています。従業員のほとんどはジャワ島などからの若者の出稼ぎです。この島からは、シンガポールの高層ビルが延々と立ち並ぶ風景が海峡越しに良く見え、まるで蜃気楼のように海に浮かんでいます。

■ビンタン島■

ビンタン島は、バタム島の東隣の島でバタム島よりも大きく、シンガポールの約2倍の広さがある人口約20万人の島です。バタム島が既に開発が進んでいるのに対して、まだほとんど開発されていません。原生林を切り開いて付けられている一部未舗装の道路をバス

～シンガポール便り～

で走り回りました。今回訪問したのは、バタム島と同様に開発が計画されている工業団地の造成現場、全長約5kmの海岸線を利用して計画されている国際的なビーチリゾートの開発予定地、パイナップル農場、それにコイの養殖場などです。

工業団地は、バタム島と同じくインドネシア領にもかかわらず通信はシンガポール経由、運輸もシンガポール経由、電気は独自の発電施設ということで計画されており、シンガポール並みのインフラ整備水準の確保をめざしています。産業立地面で見たインドネシアの問題点は、頻繁な停電や通信のトラブル、不十分な運輸施設などインフラの未整備であり、シンガポールと共同開発することによりこれらの解決をめざしています。

リゾートビーチは、東南アジアのビーチの多くが砂を巻き込んで濁っているのに対して比較的透明度もあり、延長5kmという広がりのあるヤシの木の生えた砂浜は、開発可能性も比較的高いという印象です。

パイナップル農場は新広島空港の4倍以上の面積という日本の常識からはかけはなれた規模であり、見渡すかぎり一面パイナップル畑というのはなかなか壮観でした。ただし、このように大量のパイナップルをどう加工しどう輸送しどう販売するかなどの問題はあります。

コイの養殖については、私自身素人でありどう評価すれば良いのか分かりませんが、このような養殖場があること自体意外



＜ヤシの木と水上レストラン＞

であるとともに、ツアー参加者にもコイについて馴染みがあったり関心がある人が多いのに驚きました。

■今後の展望■

東南アジアでも、人口300万人のシンガポールは現在深刻な人手不足に悩んでおり、人口1,800万人のマレーシアにも同様の問題があります。これらの国では賃金水準も急速に上昇しており、この点でインドネシアはインフラや行政システムの整備が進めば今後大きな産業発展が見込まれる国です。バタム島、ピンタン島の両島はシンガポールから近くインフラの整備も見込まれ、ジャワ島などからの労働力の移入と定着などがうまく進めば、今後大きな発展が期待されますし日本からの企業進出先としても魅力ある土地です。

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～ヤマハ音楽教室～

シンガポールでも子供の音楽教育は熱心で、地元の子供たちを対象としたヤマハの音楽教室が全部で5ヵ所にあります。教育システムは日本と同じで幼児科、ジュニア科、ジュニア科専門コースなどがあります。我が家の息子はジュニア科専門コースにいられてもらっていますが、日本人の子供は一人だけであり、ほとんどの時間を日本人学校で過ごす彼にとってはよい交流の機会となっています。

～ シンガポール便り ～

Vol.14

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



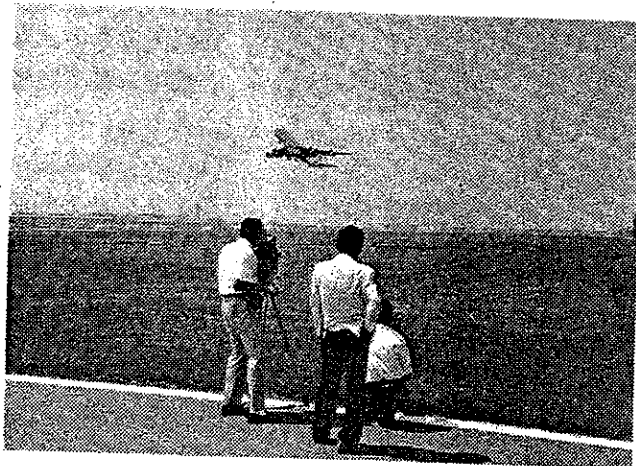
風邪がやっと治りました。シンガポールでひく風邪は当然ながら夏風邪です。今までは数日で治っていたのに今回は2週間以上も長引いてしまいました。年中タオルケット1枚で寝ているため、たまに少し涼しいとすぐ風邪をひいてしまいます。幸い当地には日本人医師が何人かいるので医療面の心配はありませんが、9～11月の3ヵ月だけで来客が団体14件 168人、個人10件、訪問等アレンジ49件、シンガポールから広島へ2件11人、周辺国への出張が7回という1年で最も忙しいシーズンと重なり長引かせてしまいました。

■ 駐在員業務の舞台裏 ■

今回は、駐在員として具体的にどんなことをしているのか業務の一端をご紹介します。

地元企業への訪問アレンジ マレーシアとシンガポールで日系資本の入っていない企業4社を訪問したいとのこと。シンガポールの方は今年の6月に地元の中小企業の広島訪問団に協力したのでその関係で依頼できますが、マレーシアの方は企業名鑑などで調べても決め手がなく、結局クアラルンプールにある名古屋市事務所に頼んで名古屋関係の企業から取引先の現地企業を紹介してもらい、訪問して依頼しました。シンガポールの現地企業についても、それぞれ事前に受入依頼に工場を訪問しましたが、従業員数30人程度の小企業でもCAD(→註①)やNC工作機(→註②)を導入して高度化を図っていることに驚きました。

チェンギ空港撮影 新空港のPRビデオ用にシンガポールチェンギ空港の撮影をしたいとのこと。まず空港を管理する民間航空庁へ依頼のレターを送付。ちなみに当地ではレターでのやりとりが基本になっており、電話でのやりとりの後にも確認のレターを出します。レターの返事と共に申請書の用紙が送られてきて早速申請。次に航空会社、空港内の関連会社へも依頼のレターを出すように指示が来



＜チェンギ空港滑走路での撮影風景＞

て、さらに同行が義務付けられているガードマン会社への手配が終わってやっと一件落着。

ホームビジット 日本語のできるシンガポリアン5人と交流会をし、その後家庭訪問をしたいとの依頼。困ったあげく日本への留学経験者の協会に依頼することとして、まず会長さんを訪問し協力を依頼。OKをいただいた後広島大学への留学経験者にも個別に協力を依頼。当地の新聞では、日本に留学しても、閉鎖的な社会、言葉の壁、物価高などに悩んで日本嫌いになって帰る留学生が多いと紹介されていますが、広島大学への留学生の一人からは立派な恩師に恵まれて実に幸せな留学生活を送ったとの話もお伺いし、私たち

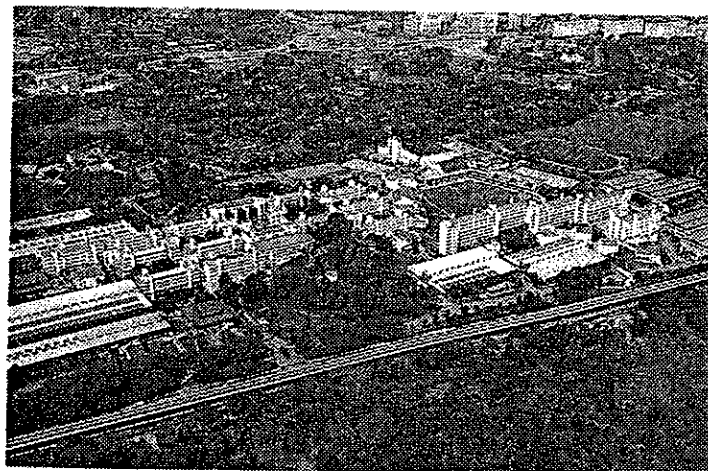
〜シンガポール便り〜

一人ひとりの受け入れ方が与える影響の大きさを感しました。

老人ホーム 当地の老人ホームを訪問し福祉について知りたいとのこと。福祉関係の協会で適当なところを紹介してもらい、その後受入依頼に訪問。体の不自由な人や高齢の人の姿を街ではあまり見かけないシンガポールですが、もちろんそういった人々がいない訳ではなく、福祉国家を目指さないというシンガポール政府の方針の下で多くの福祉施設は慈善事業として運営されています。

土地対策調査 シンガポールの土地取引制度について政府機関を訪問して調査したいとのこと。当初思いついた官庁には他にも依頼案件が2件あるので直接行って依頼した方が良からうとまず依頼のための訪問希望のレターを送付。ところが忙しいから電話で済ませようとのこと。シンガポール政府機関は感心するくらい小人数で沢山の事項をこなしています。電話でのやりとりの結果他の官庁の方が適当とのことと改めてレターを出したらまた別の官庁を紹介されて、またまたレターを出し直してやっと訪問先が決まりました。

学校の提携協議 広島の専門学校から当地のポリテクニク校との提携協議のアレンジの依頼。同校とは普段から付き合いがあるので取り敢えず電話で依頼しておいて、その後細かい打ち合わせに訪問。図書寄贈や学生の企業研修への協力の経緯もあるため当日は関係各学部長を集めてくれるなど意欲ある対応をしてくれました。私としてはこのように社会人直前で具体的な問題意識と純粋さを併せ持っている学生の交流が面白いのではないかと考えており、今後の発展を期待しています。



＜シンガポールポリテクニク校の全景＞

ガーデンシティ講演会 都市内の緑の確保に力を入れているシンガポールのガーデンシティづくりについての講演を聞きたいので講師を探してほしいとのこと。以前レセプションでシンガポール政府国立公園局に勤めておられる日本人の方に会ったことを思い出して訪ねていってみました。ランドスケープアーキテクト（景観設計技術者）として9年間もガーデンシティづくりに携わってこられたとのこと。意外なところから適任者が見つかったほっとしました。このように、色々な付き合いの中から仕事につながっていく例もあり、人との出会いが仕事のうちとなっています。

註①CAD (=computer-aided design) : コンピューターを利用した設計。「キャド」。

②NC (=numerical control) 工作機: 数値により指示されたとおりに加工する機械。

(朝日出版社「朝日現代用語 知恵蔵 1990」より)

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～南十字星～

南の地に来たなという実感が湧くものの一つに南十字星があります。ただし、シンガポールでは星座の高度が低いので見える時間が比較的短く、12月下旬に明け方見え始め、6月頃には日暮れの空に見えますが、7～12月の間は見えません。正立した南十字星の姿はなかなか美しく、上記の期間に南に来られる際には探してみられることをお勧めします。

～ シンガポール便り ～

Vol.15

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



当地での2度目の冬が近づいています。もちろん暦の上だけの話であり相変わらず暑い毎日であることに変わりはありません。季節の変化がないというのは色々な違いを生み出します。常夏の国では年中汗をかいていて新陳代謝が激しく体の休まる暇がないように感じますし、年中すくすく育っている緑の木を見ると年輪の積み重ねという言葉が懐かしくなります。当地の木はおまけに年中雨にも恵まれているため苦労知らずで根をはらずに上にばかり伸びていて、少し強い風が吹くと大木でもころりと倒れてしまいます。これから寒い冬に向かいますが、冬の貴重さを感じて楽しく過ごしていただきたいと思います。

■東南アジアは一つひとつ■

当地を訪問される方々にはまず、マレーシアとインドネシアとどちらが大きいと思うかと質問します。今までの経験ではほぼ半々に分かれます。答えは下表をご覧ください。次に下表の3と4を見てください。一人当たりGNPについては以前も触れましたが各国の人々の平均的な生活水準を比較的良く表していると思います。もちろん、インドネシアには実際には沢山の極めて裕福な人々がいるなど、この数値だけでは一面的な理解になる恐れがあるので、GNP総額など他のデータや社会の実像を見ることも必要なのですが、いずれにしてもこれらの数値だけ見ても各国の違いは大きく、ひとくくりの理解はできません。

これらの国々との付き合いをしていく場合には、自分がその国のどの立場の人々と付き合い合っているのかをよく理解しながら付き合い合っていかなければ、一面的な理解に陥る危険があります。

アセアン5か国の概要

	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	日本
1 面積 km^2 '88 (日本の 倍)	0.62 (0.002)	513 (1.36)	330 (0.87)	1,905 (5.04)	300 (0.79)	378 8.5
2 人口 百万人 '90 (日本の 倍)	3.00 (0.02)	57.20 (0.46)	17.86 (0.14)	179.30 (1.45)	61.48 (0.50)	123.54 22.85
3 GNP 百万US\$ '90 ('86→'90)	33,512 (1.93倍)	79,044 (1.97倍)	41,524 (1.61倍)	101,151 (1.41倍)	43,954 (1.46倍)	3,140,948 (1.60倍)
一人当たりGNP US\$ ('86→'90)	12,310 (1.84倍)	1,420 (1.84倍)	2,340 (1.46倍)	560 (1.30倍)	730 (1.33倍)	25,430 (1.57倍)
4 単純労働者賃 金月額 千円 '90	60~79	13~14	15~23	5~12	13~15	—

■国際交流のメリット■

経済的な発展の差が大きいとつい国際協力的な恩恵的な付き合いに目が行ってしまいがすが、国によっては特にシンガポールでは、相互交流としての文字どおりの国際交流が期待できます。いずれにしても、相手に何かをしてやるというのではなく、お互いがメリットを感じなければ交流は長続きしません。

広島側のメリットとしては、日本というコップの中の序列意識を打ち破るという効果が大きいと思います。海外との付き合いにおいては、一地方だからという遠慮や「分をわきま

～シンガポール便り～

える」といった上下左右にらみの行動パターンではなく、自分がどう考えどの程度の意欲があるかが問われます。こちらに意欲さえあれば、当地の人々には広島と直接付き合うことへの抵抗はなく、積極的な反応が期待できます。内部調整力や組織内経験の長さよりも企画力、実行力が問われることは、他の仕事にも好影響を及ぼすのではないのでしょうか。

また、異質なものの付き合い方についても、学ぶことが大きいと思います。多民族国家においては、融合ではなく共存という形で解決しており、新しいアイデアといったものを含めて異質なものに対しては排除といった形での反応が見られがちな日本にとって自分のまわりを見直す良いきっかけになるのではないのでしょうか。



■相手の反応は自分の心の鏡■

当地の新聞で、海外進出企業の日本人管理職へのアンケート調査結果としてシンガポール人は無愛想だとの評価が報道された際に、あるシンガポール人から「数年で日本に帰り本社の方ばかり見て日本人だけで固まって行動して心を開こうとしない日本人に、なぜ我々だけが一方的に愛想よくできるのか」と言われました。当地で交流事業に携わる人々と話していても、依然として日本人の東南アジアへの偏見、蔑視を感じることがあると聞きます。別に必要以上に力む必要はなく、肩の力を抜いて相手への配慮の通常の常識をもって付き合えたらと思います。

■継続と責任■

当地で問題となるのは、日本からの訪問団の中には自分の都合だけを押し付け、しかも帰国後は全く音さたがなくなる団があることです。海外に出たときだけ開放的な気分になり、色々と風呂敷を広げたり無理な要求をしておきながら、帰国後は礼状も出さずにそれっきりというのでは、とても交流の基礎となる相互信頼を築くことはできません。継続してこそその交流ですから、受け入れなどその後の継続も考えて責任ある対応をしていく必要があると思います。

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～団地国家シンガポール～

シンガポールの特徴は、①多民族国家、②強力な政府、③団地国家、です。国民の87%が公団住宅に住んでいるこの国では、民間アパートを含めると国民のほとんどが高層住宅住まいということになります。もっとも、最近建設されているアパートは4部屋以上で100㎡～130㎡であり、日本の水準に比べてかなり広いものです。これが600～2,000万円で買えます。給料月額40%（内18%は雇用主負担）という強制貯蓄制度のおかげもあり、この国では持家率80%を誇っています。以前は各民族毎にカンボンと呼ばれる集落に住んでいたのが公団アパートでは混住しており、各民族の祭毎に団地のそれぞれの家の前をライトアップして飾り付けている様子は、この国を象徴する光景です。

～ シンガポール便り ～

Vol.16



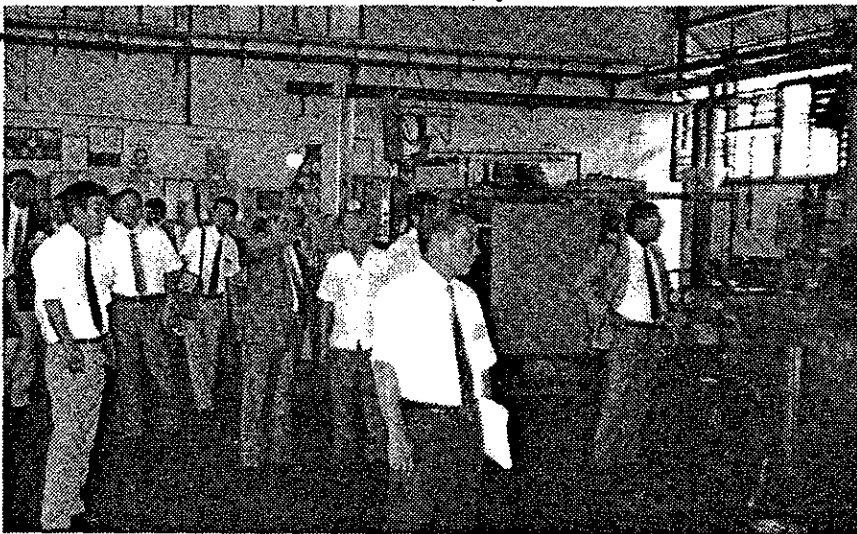
シンガポール広島事務所長 橋本 康男

年の瀬が迫ってきました。日本では寒さの深まりとともに徐々に年の暮れを感じますが、四季のないシンガポールではクリスマスの飾り付けが唯一の変化です。11月から各ショッピングセンターなどでは趣向を凝らした飾り付けが始まりますし、オフィスでもクリスマスツリーを飾っているところが多いようです。当事務所では、入口においている紅葉の造木を豆電球でライトアップしてせめてもの雰囲気を楽しんでいます。

■1年を振り返って■

事務所の開設・立ち上げ、ひろしまフェアと無我夢中で過ごした昨年と比べて、今年はアシスタントの正式雇用、事務所用車の購入、事務所の独立など事務所体制が整い、活動内容の方も幅も広がって着実に活動が展開できた年だったと思います。

経済交流では、商工会議所、企業などの視察団が日系及び地元企業の訪問、企業交流会などをした外、地元企業のミッションも広島を訪問しました。シンガポールでは、地元中小企業の発展のために海外展開を積極的に推進しており、その一環として日本企業との提携による周辺国での事業展開も奨励しています。地元中小企業は着実に育っており、技術指向型の積極的で魅力的な経営者に数多く出会います。



＜広島企業関係者のシンガポール現地企業訪問＞

一般交流でも、県・市町村職員団体、青年グループ、女性団体などが当地を訪問し、街づくりの講演会、地元の人との交流会や老人ホーム、コミュニティセンターや地元のマーケットの見学など多様な活動を行いました。

この外、学生や日系企業従業員が技術研修生として広島へ派遣されている外、高校生6人が広島県高等学校音楽祭に招待されています。

このような仕事をしていると、広島県と東南アジアとりわけシンガポールとの交流について色々な手応えと可能性が感じられますし、交流を通じて得られるものも大きいと思います。11月には日本からの来客累計が500人を超えましたし、当地でも、600人以上の人々に出会っており、来年は交流の輪がもっと大きく広がっていくことを願っています。

■今年の重大ニュース■

東南アジア地域の今年の重大ニュースとしては、タイでの軍隊と民衆との衝突、フィリ

～シンガポール便り～

ピンでの大統領の交替やアセアン各国による関税引下協定(AFTA)の合意など色々ありますが、シンガポールでは、11月に発表された副首相が二人ともガンだとのニュースがもっとも衝撃的だったと思います。

この副首相の内の一人は、独立以前から32年間にわたって合理主義、現実主義、効率追求でこの国を引っ張ってきた偉大な指導者であるリークアンユー氏(1990年11月に当時49歳のゴーチョクトン氏に政権を譲り現在は上級相)の長男リーシェンロン氏であるだけに、このニュースは複雑な波紋を投げ掛けました。リークアンユー氏は、シンガポリアンに「あなたの国の自慢は？」と聞いた際に「リークアンユー！」という答えが返っ



＜副首相の病気を伝える地元紙＞

てくるほど信頼され尊敬されている人物であるだけに、「ゴーチョクトンの次」についてリーシェンロン氏は重要な立場にあります。余談ですが、氏は私と同じ1954年生まれであり、この点でも無関心ではあり得ませんでした。

ところで、リークアンユー上級相は首相を退任してから各国で講演をしており、その内容は詳細に地元紙に紹介されます。最近印象に残ったものは、「民主主義は良い政府を保証しない」というものです。地元紙1面トップで報道されたこの講演の趣旨を私なりに要約すると、発展途上国にとっては民主主義よりもまず効率的で効果的かつクリーンな良い政府が必要であり、それによって社会の経済的発展も実現され、結果として民主主義も生み出されるというものです。今の日本から見ると乱暴な感じがする意見かも知れませんが、当地において、政府組織の安定度、信頼度と経済発展、人々の生活水準との関係を見てみると、民主主義は自動的に良い政府を生み出さない、まず良い政府の存在の重要性の問題にすべきだとの主張は、シンガポールの成功を踏まえているだけに一面説得力があるような気がします。議論の可否はさておき、現在の日本においても、行政が効率と効果をめざして努力しなければ社会発展の足を引っ張りかねないという責任を感じます。

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～シンガポールのペット事情～

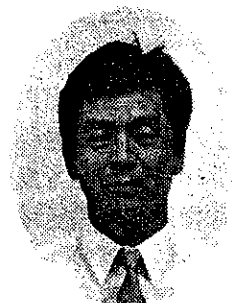
シンガポールでは犬や猫をあまり見かけないとの感想を聞きます。観光客が訪れるようなところでは確かにほとんど見かけませんし、住宅地区でも同様です。国民の9割以上が団地住まいという住宅事情に加えて、国民の14%を占めるマレー系の人々にとってイスラム教では犬が不浄とされていることも影響しているかと思いましたが、地元の中国系の人に聞くと犬を飼っていない訳ではなくあまり外へ連れて出ていないだけだとのこと。

その外のペットとしては、各団地には「水族館」という看板を掲げている金魚屋さんがあるほか、小鳥屋さんもところどころにあります。民族によって好みのペットも異なるようで、この点でも多民族社会を感じます。

～ シンガポール便り ～

Vol.17

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



あけましておめでとうございます。シンガポールに来て2度目のお正月です。とはいっても、中国系、マレー系、インド系ともそれぞれのお正月を持っているせいか、ここシンガポールのお正月は、はなはだ盛り上がりに欠けます。企業も休みとなるのは1月1日だけです。ただし、普段は地元のカレンダーに従っている当事務所も、年末年始だけは日本の美風に従って、1年のけじめ？をつけています。

今年も1年間せっせとこのシンガポール便りを書こうと思いますので、ご愛読くださるようお願いいたします。また、ご意見、ご感想等お寄せいただければ幸いです。

■メイドと運転手■

先日当事務所を訪問された県職員から冗談半分に、「県庁では、橋本はシンガポールでメイドを何人も使って運転手付きのいい生活をしているという話になっている。」といわれました。少し当地の生活についてご紹介してみたいと思います。

先程の件でいうと、我が家ではメイドさん（当地ではアマさんといいます。）も雇っていませんし運転手は私が務めています。ただし、当地では約6万5千人もの外国人メイド（シンガポールからみての外国人でありその多くはフィリピンから）が働いており、共働きがほとんどのシンガポール人家庭を支えています。

ところで、メイドを雇って運転手付きでというといい生活をしているような印象があるかも知れませんが、実際にはそうでもないようです。タイやインドネシアに駐在している日本人の場合メイドと運転手を雇っているのが一般的なようですが、これは人件費が安いことによるとともに、必要に迫られてという面もあるようです。すなわち、買物一つとっても日本人が行くと



<バンコックの街角>

値段が高くなるとか治安の問題があるとか、また交通状況等から自分で運転するのが危険であるとかといったものです。いずれにしても、私としては、いつでも一人で自由に買物に行けて、好きな時に自分で運転して出かけられる生活の方が好ましいと思います。

■シンガポールの生活■

我が家の朝は6時過ぎから始まります。日本人学校のスクールバスが7時20分に迎えに来るために、それまでにお弁当を作り朝食を済ませて子供達を送り出さなければなりません。

～シンガポール便り～

ん。以前も書いたように、シンガポールでは太陽が昇るのが広島よりも2時間遅いのには時差は1時間しかないため、毎日暗いうちに起きることになります。日本ではお弁当の必要がなかった分、妻に負担がかかっています。（ちなみに私はゆっくり寝ています。）

買物は、妻が週に1回程度近所の市場（壁のない大きな屋根の下に肉屋、魚屋、八百屋、果物屋、乾物屋などが詰め込まれているもので、床がいつも水洗いのため濡れているのでウェットマーケットと呼ばれたり、売り切れたら昼頃から閉めてしまう店も多いためにモーニングマーケットとも呼ばれています。）に行ったり、週末に家族で地元や日系のスーパーマーケットに行ったりしています。新鮮なものはウェットマーケットで、その他の物は地元のスーパーマーケットで、日本食品は日系のスーパーマーケットでと使い分けています。小さい島で特に行くところもないので、週末はこのようなショッピングで終わってしまいます。



<一般的な地元のスーパーマーケット>

小学校2年生の息子は以前紹介しましたように地元のヤマハ音楽教室に週2回通っていますし、5年生の娘は週3回塾に通っています。シンガポールに来てまで塾！とは思いますが、日本から進出している塾が大手だけで六つ七つあり、5年生ともなると60～70%の子供が塾に行っているとのことで、我が家でも「付き合い塾」となっている次第です。

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～シンガポールの雨～

シンガポールの年間降水量は 2,359mmで、広島市の 1,603mmに比べてかなり多くなっています。12月を中心に雨期とされていますが、実際には年中通して降ります。とはいっても、短期集中型の雨であり、日本の梅雨のようにじとじとと降り続くことがないので、日本に比べて雨が多いという印象はありません。

雨の降り方の違いは、色々な面白い違いを生み出します。雨がすぐやむために長傘を持って歩く習慣がなく日本から進出した長傘の間屋さんの商売がうまくいかなかったとか、高速道路には立体交差の下に二輪車のための雨宿り場所が用意してあるなど当地ならではの話です。すぐやむ分その降り方は強烈で、豪雨の時には屋間にライトを点けていても前の車が見えない程です。また、雨の境界がはっきりしているのも特徴で、大きなグラウンドの半分だけ雨という経験もあります。



<雨宿り場所の道路標識>

～ シンガポール便り ～

Vol.18

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



シンガポール便りも早いもので18号を迎えました。広島を離れてからもう1年半も経ったかなという感じです。夢中で取り組んでいるうちに、いつの間にかこちらの生活にも随分なじんできています。最近忙しい中にも少しは気分的にゆとりが出てきて、一番おもしろい時期ではないかと思っています。ところで、当事務所の仕事は将来的にも県行政全体としての仕事の広がり期待され、私の“次”もぜひ県から派遣していただきたいと痛切に念願しています。

■中国正月■

当地最大の行事である中国正月が済み、街もやっと本当に年が変わったという気分になってきました。今年は日曜日と重なり3連休でした。

中国正月はお互いに家庭を訪問するのが習慣で、私も初日は当地の中華総商会のレセプション（商工会議所、主賓は副首相）に出席、2日目、3日目はシンガポール人の家庭に家族で招待されてと、あっという間に過ぎてしまいました。



＜シンガポール人の家庭での中国正月＞

■競争社会シンガポール■

西洋文化と東洋文化の接点として、競争社会、学歴社会、個人主義というのがシンガポールについての印象です。よりやりがいいのある仕事、より高いポスト、より高い給与を求めて転職するのが当然のこととされています。これは、自分の仕事とそれに対する評価について普段から真剣に考えているということでもあり、これは男性も女性も同一です。この背景としては、仕事の評価が基本的に個人単位に個人の能力としてとらえられ、個人の努力が重視されているという点があるようです。

また、日本を上回る学歴社会でもあります。大卒の平均初任給が 1,700F\$（1F\$≒74円→2月17日現在）に対して高卒は 1,000F\$、中卒は 700F\$程度と大きな開きがある上、その後の昇任、昇給も学歴によって左右される面が大きいです。教育も小学校4年生の試験以降幾度かの試験によって成績別のコースに振り分けられるなど、日本以上に厳しい面もあるように感じます。

シンガポールのこのような厳しい面をみていると、馴れ合い、ぬるま湯、無責任、悪平等、横並び主義といわれかねない面もあるものの、日本式のやり方が懐かしくなります。

■当事務所のアシスタント自慢■

海外勤務初体験の私がまがりなりにも事務所開設1年半を充実した気分で迎えらるの

～シンガポール便り～

も、当然ながらアシスタントさんのおかげです。当初は雇用を認められませんでしたでしたが、他の全ての自治体事務所で雇用していて重要な役割を果たしていること、予想以上の仕事量の中でアシスタントなしでは事務所が成り立たないことなどを根気強く説明した結果、雇用へと漕ぎつけました。当初その必要性が理解してもらえなかったように、アシスタントさんといってもその仕事の内容がピンとこないと思いますので、少しご紹介します。

当事務所は職員2名だけのミニ事務所ですが、独立事務所として一通りの仕事があります。すなわち、物品管理、各種経費支出と証拠書類の整理、毎月の決算、予算管理等の庶務経理事務、電話対応、来客へのお茶などの受付業務、広島からの訪問団のためのアポイントメントの取付交渉、詳細打合せ、レター作成、事務所活動記録の作成、東南アジアの広島関係企業への毎月の資料送付などのアシスタント業務、来客用説明資料のデータチェック及びデータ更新、資料収集などの調査研究業務といったようにその業務は広範にわたっています。もちろん重要な交渉や個別業務の指示は私自身が行いますが、出張やアテンド、ミーティングと事務所を空けることが多く、かなりの部分は任せきりになります。また、当地の慣習、常識など外国人では分からないことも多く、そういった面では相談相手ということにもなります。

当地では、女性のジョブホッピングも一般的であり、また決められたことだけをビジネスライクにこなすだけだとの話も聞きますが、幸い当事務所のアシスタントさんは当地での評価が高く、私の自慢の種です。名前はMs. Hoo Pek Tim, 年齢その他のデータは非公表となっています。

日本語を教えたいのですが、その時間がないのが悩みです。



＜Ms. Hoo Pek Tim, 左端は中国正月の飾り付け＞

《シンガポール生活ひとくちメモ》 ～カード社会シンガポール～

シンガポールに来て増えたものに、体重とカードの枚数とがあります。体重は、食べるものがみな旨くて8kg程増えていますが、カードの方も急激に増加しており常時15枚程度を携帯しています。広島では、銀行のキャッシュカードと運転免許証程度しか縁がなかった私ですが、カード社会のシンガポールではそうもいきません。

労働ビザのカード、日本人会等の各種会員カード、クレジットカード、各デパートの割引カード、銀行・郵便局のキャッシュカードと増えるばかりです。



～シンガポール便り～

Vol.19

シンガポール広島事務所長 橋本 康男



日本では年度末が迫り何かと気忙しい時期かと思えます。当地では学校の新学期が1月ということもあり（大学等は7月）、あまり年度末という感じはありません。

4月初めには1年8ヵ月振りに1週間ほど広島に帰る予定です。バタム島工業団地セミナーなどのためあまり時間がないのですが、久しぶりの広島を見るのが楽しみです。

■インドの奇祭タイプーサン■

タイプーサンというのは、当地にいるインド系の人の半数以上といわれるヒンズー教のお祭りで、今年は2月6日に行われました。

宗教上の敬虔な行事を「奇祭」というのはいささか不適當かも知れませんが、宗教の激しさに普段馴染みのない者から見れば、これは奇祭としか呼びようがないような気がします。頬と唇に舌を貫いて上下左右に針を刺し通し、身体にも針を刺してそれにオレンジや飾りをぶらさげたりして、20～30kgもあるというカバティという名の飾りを担いで約4kmの道のりを歩く姿を見ると、我々の理解を超えています。頭では理解しているつもりだった多民族国家という言葉が、民族、宗教間の理解の困難さ、隔たりの大きさと共に実感として感じられます。祈願あるいは祈願成就のお礼のための勤行だということですが、あれだけ針を刺してなぜ痛くないのか、血が出ないのかといった単純な疑問など、朝早くから夜まで延々と続く行者



＜タイプーサンの行進の参加者＞

の列の前には押し潰されて、そのすさまじい宗教のパワーにただ圧倒されます。シンガポールの人口の7%を占めるインド系の人々の存在が急に大きく感じられました。

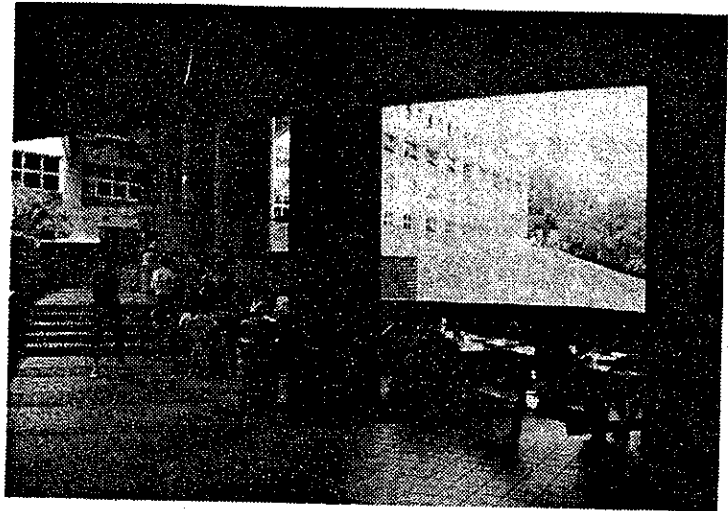
■イスラム教のラマダン■

2月23日からイスラム教の断食月であるラマダンが始まりました。1ヵ月の間、太陽が出ている間は飲み物も食物も摂ってはいけないということです。年中日中は30度を超えるこの熱帯の国でと思うのですが、普段宗教について無関心で過ごしている日本人にはやはり理解しがたいものがあります。イスラム教の場合シンガポールの国民の14%を占めるマレー系の人々がほぼ全て信者だということからその影響は大きく、工場の生産性が落ちるといわれています。それだけにラマダン明けのお祭りハリヤブアサは喜びも大きく、イスラム教の正月といわれるように大変にぎやかに祝われます。以前も書いたように、マレー系の人々の家の前は豆電球で飾り付けられ、その喜びを表しています。

～シンガポール便り～

■教育国家シンガポール■

最近シンガポール人と教育論議をしています。つまり、シンガポールと日本とどちらの教育制度の方が子供達にとって厳しいかということです。日本の受験戦争というのは当地でも有名で、またシンガポールにも6校ほどの日本の学習塾が進出していてかなりの子供が通っていることから、日本の方が厳しいじゃないかというのが地元側の言い分です。これに対し私は、シンガポールの子供も9



＜シンガポールの学校風景、ポリテクニク校＞

割程度は家庭教師に付いているといわれているし、小学校4年生の進路振り分け試験から始まって小学校卒業試験、中学校卒業試験などと試験によって進路が早くから振り分けられているシンガポールの方が途中の挽回ができていく分だけ厳しいじゃないかと反論します。すなわち、早くから個人の能力に応じた教育をしていくのが良いという考えのシンガポールと、個人の能力の伸びる時期には違いがあるので、あまり早くから振り分けずにみんなが同じように競争していくほうが良いという日本的な考えとの違いが議論の基本にあります。

■かえるの釜ゆで■

また、当地の日系企業の方との間で最近話題になったものに、日本経済の将来は大丈夫だろうかというのがあります。といっても別に大層な議論ではなく、単に最近の日本では寡占状態にあぐらをかいて、正当な競争を阻害し世界的に通用しない価格が維持されている例があるが、そんなことでは国際的な競争力がなくなってしまうのではないかと。さらに、安定状態の中で周囲の環境の変化を理解しない年功序列幹部や前例踏襲スタッフが、自分の組織内経験だけを頼りに、新しい取り組みに対して問題点やできない理由を数えあげているというのでは、世界の中で通用しなくなってしまうのではないかと、というものです。いわば釜の中の蛙が周囲の温度の変化に気が付かず知らぬ間に茹であがって死んでしまうのに似て、自分の都合の良い情報ばかり見ているうちに世間に通用しないまま取り残されてしまうこともあり得ます。生き残りのためには組織の自己変革能力、すなわち、環境の変化に対して新しい事業、組織内資源の再分配が必要であり、それが自律的にできるかどうかの問題となっていますが、安定状態に慣れた組織ではなかなか難しいようです。

《シンガポールひとくちメモ》 ～矯正清掃命令～

罰金国家シンガポールでも、そこまでやるのかと話題となっているものに昨年の11月から導入された「矯正清掃命令」があります。ゴミ捨てに対しては、以前は約8万円以下（2回目からは約16万円以下）の罰金だけでしたが、新たに、公共の場所を1～3時間清掃することを命令する制度が導入されました。矯正清掃命令と書かれた上着を着せられて掃除をする姿が新聞に大きく載せられており、社会の違いを感じざるを得ません。